

## 第一部拡大役員会（第23期・第5回）

### 議事次第

1. 会議名 第一部拡大役員会（第23期・第5回）
  2. 日時 平成27年12月18日（金）10時00分～12時00分
  3. 場所 日本学術会議 5-A（2）会議室
  4. 議題 (1) 前回議事録の確認  
(2) 人文・社会科学の振興について  
(3) 学協会との連携について  
(4) その他
  5. 資料 (1) 第一部拡大役員会 第4回議事要旨  
(2) 日本学術会議ニュース・メール No. 525  
(3) 国際哲学人文学会議（CIPSH）参加報告  
(4) 人文・社会科学の振興に関する第一部的見解（項目案 ver. 2）  
(5) 夏季部会に関する資料
- ※当日配布

2015.12.18

日本学術会議第一部拡大役員会（第23期第5回）

1. 第4回拡大役員会議事要旨の確認
2. 最近の動向について
  - 1) 幹事会
    - (1) 日本経団連との懇談（12月17日）について
    - (2) 学術フォーラム（1月7日）について
  - 2) 第一部
    - (1) 愛媛大学・徳島大学における聴き取りについて
    - (2) その他
  - 3) CIPSH（国際哲学・人文学会議）
  - 4) 分野別委員会
3. 人文・社会科学の振興について
  - 1) 人文・社会科学の役割とその振興に関する分科会の取り組み
  - 2) 第一部文書の内容について
4. 学協会との連携について
5. その他
  - 1) 夏季部会について
  - 2) その他

## 第一部拡大役員会（第23期・第4回）

### 議事要旨（案）

会議名： 第一部拡大役員会（第23期・第4回）  
日時： 平成27年11月27日 10:00-12:07  
場所： 日本学術会議 6-C（1）  
出席者： 小森田秋夫、杉田敦、小松久男、松浦純、藤原聖子、箱田裕司、遠藤薫、  
久保亨、山川充夫、松本恒雄、河田潤一、矢野誠、上林憲雄、井野瀬久美恵

#### 議題

1. 前回議事録（資料2）の確認

2. 最近の動向について

##### (1) 幹事会

部長より10月の幹事会について説明があり、関連する質疑がなされた。

・幹事会は10月25日「人文・社会科学系のあり方に関する声明への賛同・支援への謝意と大学改革のための国民的合意形成に向けての提案」と題する第2の声明を出した。これをうけて、幹事会は12月17日に日本経団連（未来産業・技術委員会）との意見交換を行い、1月7日には文科省の高官を含む関係者を招いて大学の将来に関する公開学術フォーラムの開催を予定している。

→ 文科省は、6.8通知にいう「廃止」は教員養成系の「ゼロ免」課程にかかるものと説明しているが、人文・社会系に対して「社会的要請の高い分野への転換」への転換を求めていることには変わりなく、この点はフォーラムにおいても焦点にすべき。

・いわゆる軍事研究、とくに防衛省の公募研究費などについて幹事会懇談会で議論を行った。当面は専門の分科会を創設することはせず、意見交換を進めて行くことになったが、どこに、どのような問題があるかを自覚することが重要である。

→ アメリカでは、アメリカ心理学会（APA）の会員が「高度専門技術」に関して国防省やCIAに協力していたことが問題視されている。責任は個人か、それとも組織にあるのか、という問題がある。日本ではどうなっているか。

→ JPAでは、刑事司法の領域で専門のやり方に関わったことはあるが、軍事とは関係していない。倫理規定はあるが、軍事との関係はまだ明記されていない。結果として軍事目的に使われる可能性はあり、テロと軍事との境界線もむずかしい。

##### (2) 課題別委員会

部長からGサイエンス対応小分科会について説明がなされた。G7+ $\alpha$ に合わせて来年2月17-19日に開催されるGサイエンス会議では、「脳と心」「防災」「科学者育成」の三つのテーマが取り上げられる。テーマごとにドラフト作成チームが編成され、「科学者育成」

では、人文・社会系からも大沢真理連携会員が委員となっている。

### (3) 第一部

#### ・国際協力分科会

部長から資料3に基づいて説明があり、3年に一度開催の世界社会科学フォーラム WSSF が2018年に福岡で開催される見通しとなった、九州大学の青木会員をはじめとする組織委員会が成立して準備が始まっており、会議は同組織委員会と日本学術会議との共同開催とすることがめざされている、と報告された。

→ 関連して、国際的にはこれと同等にある UNESCO 傘下の国際哲学人文科学会議 CIPSH について、日本では知名度が低く、日本学術会議もこれに加盟していないことが指摘され、その活動について、藤原会員からニューズレターに報告を寄せていただくこととなった。

#### ・科学と社会のあり方を再構築する分科会

杉田委員長から9月に開催された分科会について、確度は低いが高リスクは大きな問題、また科学者コミュニティで意見が分かれる問題について、緊急時にどのように発信すべきかについて討議を行い、来年報告をまとめる予定との報告がなされた。

#### ・総合ジェンダー分科会

井野瀬委員から、同分科会は公開シンポジウムの開催などの活動を重ねることにより検討を深めていく方針であり、来年3月に若手研究者養成とジェンダーをテーマとするシンポジウム、5月には学協会と連携したシンポジウムを予定していることが報告された。

#### ・社会科教育のあり方

現在審議されている高校の新教科「公共」に備えて、心理学・教育学委員会の下に「市民性の涵養という観点から高校の社会科教育の在り方を考える分科会」が設置され、中教審のパブリックコメントは来年夏に予定されていることに鑑み、小人数で機動的に審議を行う予定であることが報告された。

関連して、歴史教育分科会では、現在審議されている高校の新教科「歴史総合」がどのような内容になるのかを注視しており、抽象的にならず、生き残る科目となるように来年2～3月には提言をまとめるべく、ボランティアで会議を開催する予定であるとの報告がなされた。また、政治学委員会も「公共」に向けて委員会としての考え方を提示したい旨の発言があった。

## 3. 人文・社会科学の振興について

### (1) 人文・社会科学の振興に関する今後の取り組みについて

・資料4に基づいて部長から、以下のような説明がなされた。第一部附置の「人文・社会科学の役割とその振興に関する分科会」は、現在関係者にアンケート調査を行っており、情報収集に努めている。役員会としては、当面の問題の焦点は地方国立大学の改組にあると考え、12月に愛媛大学と徳島大学の人文系学部長を訪問し、聴き取りを行う予定である。

今後は拡大役員会の場を活用しながら議論を深めていきたい。

その後、配布資料「人文・社会科学の振興に関する第一部の見解（項目案 ver.1）」について説明がなされ、次のような意見交換がなされた。

- この文書の位置づけはどのようなものか。広く深く論じることとは別に、現在の焦点に特化した見解を打ち出す必要があるのではないか

→ これまでの二つの幹事会声明は学術会議全体として発出した。今回は第一部の見解として出したい。

- 再編については、ただ文科省の要請に応えるのではなく、各大学の内在的な根拠に基づいて考えることが必要であり、この意味で各大学に参考となる文書と考えてはどうか。

- 職業教育に流れていくような方向ではありえない。

- 文科省は教育体制の再編について指摘しているのであって、研究には踏み込んでいないことに留意すべき。教養教育と専門教育との関係について整理する必要がある。

- 研究と教育との有機的な結びつきを強調する必要がある。これは分離することができない。文科省による国立大学の3分類は、地方国立大学の研究水準を正當に評価しておらず、地方国立大学における研究をどうするのかは重要な問題である。東大・京大だけでは人文・社会科学の将来は成り立たない。3分類については留保してはどうか。

- ヒューマニティーズとリベラルアーツとは同一ではない。地方社会に対する大学の役割を考えても、地方に一つしかない総合大学には人文系がなくてはならない。ここで私学との関係も考える必要がある。

- 人文系は、理系と比べると教育のポストしかなく、ここに制度的な弱点がある。

- 文書の名宛人に市民は入らないのか。市民への貢献という観点が弱くないか。また、振興の意味合いは何か。研究が活性化することか、それとも存在が認知されることか。

- 社会に役立っていないという批判に応えるには、社会貢献のありようを伝える必要がある。

- 一般に文系に対して理系が優位に立つというイメージが広がっているが、こうした現状に甘んじてはならない。アーツはサイエンスに優るという考え方もある。

- この文書を発出するときの媒体はどうなるのか。世の中に知られずに終わることがないように、発信の方法を考える必要がある。

- 文書のタイトルについて、大学教育と関連付けてはどうか。

→ 今回の資料はたたき台として提出したものであり、今後とも議論を積み重ねていきたい。

- 次回の拡大役員会は、12月18日午前10時からとし、この文書の件を引き続き検討することになった。また、今回の資料（ファイル）は第一部で共有することになった。

#### 4. その他

##### (1) 旅費についての会長メッセージについて

部長から、10月20日に旅費の逼迫状況について会長から各委員長あてにメッセージが送られたが、その後の調査で旅費は12月中にも底をつく可能性が出てきた、各委員会・分科会で開催の判断が求められているが、こうした事態を繰り返さないために、来年度以降の予算管理の在り方を考えてもらうよう幹事会でも発言したい、との説明があった。

## (2) 学術会議シンポジウムの託児サービスについて

遠藤薫会員から資料7に基づいて、学術会議の催事における託児サービスの開設について問題提起がなされた。これを受けて、日本経済学会や歴史学研究会の大会における事例が紹介された。学術会議としてこれを実現することには困難もあるが、当面、各学会における取組みや政府・自治体などの状況について、事務局とも協力しつつ調査するよう、総合ジェンダー分科会に依頼することになった。

以上

■-----  
日本学術会議主催 新春緊急学術フォーラム「少子化・国際化の中の大学改革」  
の開催（予定）について（ご案内）  
-----■

- ・ 日 時：平成 28 年 1 月 7 日（木）13：00～17：55
- ・ 場 所：日本学術会議講堂
- ・ 共 催：一般社団法人国立大学協会、日本私立大学団体連合会（調整中）

・ 開催趣旨：

少子化、国際化、理科離れ、実践的教育の重視論等、わが国の高等教育をめぐって種々の環境変化や動きが顕在化している。一方で、高等教育は人材育成の最終過程であるとともに、大学において行われる研究活動を通じて、産業・社会の革新がもたらされる。時代の展開において、わが国の大学は何処に向かって舵をとるべきかを、大学人、政治・行政、経済界、メディアを代表する識者による問題提起と討論によって探る。

・ 次 第：

総合司会：

井野瀬久美恵（日本学術会議第一部会員・副会長、甲南大学文学部教授）

13：00～13：10 開会挨拶・趣旨説明

大西 隆（日本学術会議第三部会員・会長、豊橋技術科学大学学長、  
東京大学名誉教授）

13：10～15：40 講演（1人20分）（50音順）

帯野久美子（株式会社インターアクト・ジャパン代表取締役）

黒田 壽二（日本私立大学団体連合会副会長、金沢工業大学学園長・総長）

里見 進（一般社団法人国立大学協会会長、東北大学総長）

鈴木 寛（文部科学大臣補佐官）（概ね 14:30 頃～講演 20 分、質疑 10 分）

清家 篤（日本学術会議連携会員、日本私立大学団体連合会会長、  
慶應義塾大学塾長）

永田 恭介（一般社団法人国立大学協会副会長、筑波大学学長）

柳澤 秀夫（日本放送協会解説主幹）

（経団連：調整中）

15：40～15：55 休憩

15 : 55~17 : 45 パネルディスカッション (50 音順)

司会 :

杉田 敦 (日本学術会議第一部会員、法政大学法学部教授)

パネリスト :

帯野久美子 (前掲)、黒田 壽二 (前掲)、里見 進 (前掲)、

清家 篤 (前掲)、永田 恭介 (前掲)、柳澤 秀夫 (前掲)、

(経団連 : 調整中)

17 : 45~17 : 55 閉会挨拶

福田 裕穂 (日本学術会議第二部会員、東京大学大学院理学系研究科長・  
理学部長・教授)

(参加費 無料)

・定 員 : 先着 250 名

・お申込み : 日本学術会議ウェブサイト

(<https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0003.html>) 又は

Fax: 03-3403-1260 にてお申込み下さい。

・問合せ先 :

日本学術会議事務局企画課学術フォーラム担当

〒106-8555 東京都港区六本木 7-2-2-34

電話 : 03-3403-6295

★-----☆

日本学術会議では、Twitter を用いて情報を発信しております。

アカウントは、@scj\_info です。

日本学術会議広報の Twitter のページはこちらから

[http://twitter.com/scj\\_info](http://twitter.com/scj_info)

\*\*\*\*\*

学術情報誌『学術の動向』最新号はこちらから

<http://www.h4.dion.ne.jp/~jssf/text/doukousp/index.html>

\*\*\*\*\*

=====

日本学術会議ニュースメールは転載は自由ですので、関係団体の学術誌等への転載や関係団体の構成員への転送等をしていただき、より多くの方にお読みいただけるようにお取り計らいください。

本メールは、配信専用のアドレスで配信されており返信できませんので、あらかじめご了承ください。本メールに関するお問い合わせは、下記の URL に連絡先の記載がありますので、そちらからお願いいたします。

=====

発行 : 日本学術会議事務局 <http://www.scj.go.jp/> 〒106-8555 東京都港区六本木 7-22-34

## 国際哲学人文学会議（CIPSH） 参加報告

報告者 哲学委員会幹事 藤原聖子

### ○ 国際哲学人文学会議について



#### 1. 名称

CIPSH/ICPHS

(CONSEIL INTERNATIONAL DE LA PHILOSOPHIE ET DES SCIENCES HUMAINES /  
The International Council for Philosophy and Human Sciences)

#### 2. 組織

設立 1949年

現会長 CHAO GEJIN (2014～) 文学研究・中国

現事務局長 LUIZ OOSTERBEEK (2014～) 歴史学・ポルトガル

役員 (Board) 会員・事務局長を含め 12名

会員 (Member Organization)

UAI- Union académique internationale / International Academic Union

CIHA – Comité international pour l’histoire de l’Art/ International Committee for the History of Art

CIPL – Comité international permanent des linguistes / Permanent International Committee of Linguists

CISH – Comité international des sciences historiques / International Committee of Historical Sciences

FIEC – FIEC - Fédération internationale des associations d’études classiques / International federation of associations of classical studies

FILLM – Fédération internationale des langues et littératures modernes/ International Federation for Modern Languages and Literatures

FISP – Fédération Internationale des Sociétés de Philosophie / International Federation of Societies of Philosophy

IAHR – Association internationale pour l’histoire des religions/ International Association for the History of Religions

IUHPS/DHST – International Union of History and Philosophy of Science and Technology/Division of History of Science and Technology / Union internationale d’histoire et de philosophie des sciences/Division d’histoire des sciences

IUHPS/DLMPST – International Union of History and Philosophy of Science and Technology/Division of Logics, Methodology and Philosophy of Science and technology/ Union internationale d’histoire et de philosophie des sciences et de la technologie/Division de logique, méthodologie et philosophie des sciences et de la technologie

UIEAE – Union internationale des études anthropologiques et ethnologiques/ International Union of Anthropological and Ethnological Studies

UISPP – Union internationale des sciences préhistoriques et protohistoriques/ International Union of Prehistoric and Protohistoric Sciences

年 4回 *Diogenes* を発行

## ○総会の報告

開催期間 12月8～9日

開催地 北京 Friendship Hotel

総会参加人数：27名（他にユネスコと2017年WHC開催大学からの代表3名）

（報告者はIAHR〔国際宗教学宗教史学会〕の代表の一人として出席。日本からの参加者は、他に、第三部会員氷見山幸夫氏。）

主催機関 中国社会科学院民族文学研究所、中国科学院大学、中国科学院自然科学史研究所

### 1. 2010年の総会（名古屋市でISSCと同時開催）と比べて

- ・ユネスコとの連携が正常化
- ・事務局長のリーダーシップが評価される

### 2. 中国の台頭（⇔日本）

- ・役員12名中、2名のアジア人はともに中国
- ・総会参加者27名中、中国人8名（2010年名古屋大会では日本人は報告者のみ）
- ・新規加入団体
  - ①中国社会科学院
  - ②CHCI Consortium of Humanities Centers and Institutes
  - ③IGU International Geographic Union
  - ④IAA International Association for Aesthetics

### 3. 今後（短期）の主な活動

- ・World Humanities Conference（World Conference of the Humanities）  
2017年8月6日～12日（ベルギー・リエージュ市）  
テーマ Challenges and Responsibilities for a Planet in Transition
- ・ICSU、ISSCとともに、2016年をInternational Year of Global Understanding（IYGU）と認定、推進

表1 開催地別旅費計算値（単位円、居住都道府県庁所在地発、全員参加（第一部 71 名、第二部 69 名、第三部 69 名で計算）

開催地	第一部	第二部	第三部	計
札幌	6,849,040	6,669,280	6,477,920	19,996,240
仙台	3,806,100	4,024,960	3,303,640	11,134,700
金沢	3,185,980	3,480,500	3,526,260	10,192,740
東京	1,449,040	2,263,840	1,908,260	5,621,140
名古屋	2,922,700	3,186,340	3,233,200	9,342,240
京都	2,888,500	3,175,940	3,301,260	9,365,700
福岡	6,045,960	5,758,100	6,157,540	17,961,600

表2 平成24年から27年4年間合計/平均

	合計旅費	夏季部会1回 当たり旅費	平均出席率%	平均出席者1人当たり 旅費(円)
第一部	5,467,860	1,366,965	56.0	33,658
第二部	6,568,430	1,642,108	48.3	51,428
第三部	9,584,100	2,396,025	63.8	54,296

(参考)過去4か年の旅費支払額及び出席率

年度	旅費支払金額	出席率	場所
<b>27年度</b>	<b>7,066,510</b>		
第1部会	1,862,290	62.7%	福島市AOZ
第2部会	2,705,660	43.6%	北海道大学
第3部会	2,498,560	62.4%	高知工科大学
<b>26年度</b>	<b>5,557,910</b>		
第1部会	1,414,770	50.7%	石川県政記念しいのき迎賓館
第2部会	1,020,420	40.8%	名古屋大学豊田講堂
第3部会	3,122,720	57.6%	旭川市民文化会館
<b>25年度</b>	<b>3,928,760</b>		
第1部会	615,950	52.7%	日本学術会議
第2部会	1,403,570	50.7%	京都大学物質・細胞統合システム拠点本館
第3部会	1,909,240	69.2%	名古屋大学東山キャンパス
<b>24年度</b>	<b>5,067,210</b>		
第1部会	1,574,850	57.9%	京都大学北部構内旧演習林事務室
第2部会	1,438,780	58.0%	東北大学金属材料研究所
第3部会	2,053,580	65.8%	京都大学吉田キャンパス